



令和6年度 井上綾乃 保育ゼミ通信 2

あそびで子どもの発達を支援する
～保育実践プログラム～

和光市保育センター 令和7年3月18日発行

令和4、5年度に続き、発達支援スキルアッププログラムの研修を継続して行っています。令和6年度は最終3年目となります。学んだ知識を活かして発達支援につながる遊びを体験しながら考え、学んでいます。今回も第4回、第5回の内容を集約してご紹介します。

「絶対に〇〇でなければならない」思考の子には、そうならなくても大丈夫だった、楽しかった経験を積み上げることが大切です。その経験ができるように保育者が工夫をしましょう。

思いが叶わなかつた時、大人は大丈夫だと思う事でも、思考の固い子にとっては、とても辛いことなんだね。

その子がどの程度なら諦められるのかを探り、支援をする大人の柔軟な思考とアイデアで支援することが大切だね！



「絶対に勝ちたい！」勝敗に思考の固さがある子には
①②③が入っている遊びで、負けても大丈夫だった、楽しかった経験を。

① 勝ち負けがある

② 短時間で勝敗がつく

③ すぐに繰り返しのチャンスがある

あそびを
考えてみました！

- ・らめっこ
- ・あっちむいてホイ
- ・どっちの手に入っているか
- ・紙飛行機とばし
- ・ボール転がし など…

追従性眼球運動

対象を眼球で追い続ける運動機能。
文章の文字を目で追うときなどに必要。



上記二つの眼球運動を体験してみたよ。どちらも運動機能なので、遊びで発達を促すことができるんだね！

跳躍性眼球運動

瞬時に視点を移動し、ピントを調整する運動機能。板書、文章の改行の時などに必要。



あそびを
考えてみました！

転がってくるボールをキヤツチ（追従性眼球運動）、まちがい探し（跳躍性眼球運動）など…

第5回では、参加者によるまとめの回。和やかな雰囲気の中、お互いのグループの発表内容を真剣に見聞きしていました。参加してくれた先生方の学ぶ意欲、そして毎回、時間が過ぎるのが早すぎると感じる井上先生の楽しいご講義のおかげで満足度の高い研修となりました。

発達特性を正しく理解し、肯定的な視点で支援する事、また、大人の柔軟な思考・知識・経験で積極的に支援にチャレンジしていく事の大切さを胸に刻み、多くの人に伝えていきたいですね。

